

「元気発進！子どもプラン（第2次計画）」（北九州市次世代育成行動計画） 14の施策の評価結果

政策	施策	柱	活動の状況				活動の評価	成果指標						成果の評価		施策の総合評価									
			大変順調	順調	やや遅れ	遅れ		指標	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	対前年度比					点	評価						
1 安心して生み育てることができる環境づくり	(1) 母子保健	① 安全に安心して妊娠・出産できる環境づくり	1	9	1	0	2	妊娠11週までの妊娠届出者の割合	増加	93.8%	94.0%	91.7%	91.2%	▲ 0.5 pnt	3	3	<p>[指標の説明] *妊娠11週までの妊娠届出者の割合、生後4か月までの乳児家庭訪問の割合とも、90%超の高水準を維持しているが、妊娠11週までの妊娠届出者の割合は、減少傾向にある。 *「10代の人工妊娠中絶率」は、減少。</p> <p>[評価] >安心して生み育てることができる環境づくりを進めるため、若年の妊婦や産後うつなど養育支援が必要な家庭に早期に関わる支援や、妊産婦と乳幼児の健康管理など、妊娠・出産・子育て期の切れ目ない支援に取り組んだ。</p> <p>[今後の方向性] >今後も、母子の健康保持・増進を図るとともに、子育ての孤立化を防ぐため、関係機関と連携して、地域での見守り体制を充実するなど、安心して生み育てることのできる環境づくりを進めていく。</p>								
		② 発達の気になる子どもの早期発見、早期支援体制の強化	1	1	0	0		生後4か月までの乳児家庭訪問の割合	増加	93.0%	95.2%	95.5%	95.1%	▲ 0.4 pnt	3										
		③ 養育支援の必要な家庭に対する支援の充実	2	7	0	0		10代の人工妊娠中絶率	減少	13.7% ^〇	14.1% ^〇	11.7% ^〇	11.5%	▲ 0.2 pnt	2										
		④ 基本的生活習慣の定着や食育の推進	1	9	1	1		33/36事業																	
		⑤ 適切な思春期保健の推進	1	1	0	0																			
		計	6	27	2	1								91.7%											
	(2) 母子医療	① 周産期医療・小児救急医療体制の維持・確保	2	3	0	0	1							周産期医療、小児救急医療体制	維持	維持		維持	維持	維持	-	-	1	1	<p>[指標の説明] *市立医療センター総合周産期母子医療センター等4病院を中核とした産科連携体制を維持。 *市内医療機関の連携による24時間365日対応の小児救急医療体制を維持。</p> <p>[評価] >引き続き、周産期・小児救急医療体制を維持したことにより、市民に大きな安心感を与えることができおり、本市の子育て環境の高評価につながっている。</p> <p>>また、不妊治療への助成や、子ども医療費支給制度を維持し、支援は順調に進捗している。</p> <p>[今後の方向性] >引き続き、医師の確保などにより、支援体制の維持を図っていく。</p>
		② 子どもの感染症予防の推進	0	1	0	0								7/7事業											
		③ 不妊治療に関する支援の充実および市民の理解促進	0	1	0	0																			
		計	2	5	0	0		100.0%																	
	(3) 子育ての悩みや不安への対応	① 地域における子育て支援の環境づくり	10	37	2	0	1	子育ての悩みや不安を感じる人の割合 (i) 就学前児童	減少	23.9%	25.9%	34.8%	33.9%	▲ 0.9 pnt	2	2		<p>[指標の説明] *子育ての悩みや不安を感じる人の割合は、就学前児童、中学・高校生の保護者では、減少している。 *子育てが地域の人に支えられていると感じる人の割合は、就学前児童、小学生の保護者では、増加している。</p> <p>[評価] >子ども・家庭相談コーナーでは、関係機関と連携しながら、各家庭の状況に応じた支援・対応に努めた。 >子育てが地域の人に支えられていると感じる人の割合について、就学前児童の保護者が増加している。保健師、幼稚園・保育所、親子ふれあいルームなどでの支援体制の充実が、良い結果につながっていると考えられる。 >平成30年度に別途実施したアンケート調査では、子育てを楽しんでいる割合が約9割となっており、相談の場や支援の仕組みにより、保護者の悩みや不安が軽減・解消されていると考えられる。</p> <p>[今後の方向性] >引き続き、子育ての悩みや不安を軽減することができるよう、相談の場や支援策のさらなる充実を図るとともに、その周知に取り組む。 >家族や友人など気軽に相談できる人のいない子育て世帯をしっかりと支えられるよう取り組む。</p>							
			(ii) 小学生	減少	29.4%	30.0%		40.0%	43.1%	3.1 pnt	3														
② 市民が利用しやすい相談体制		0	8	0	0	(iii) 中学・高校生		減少	28.1%	29.9%	41.0%	35.2%	▲ 5.8 pnt	2											
		③ 必要とされる子育てに関する情報が市民に届く仕組みづくり	0	4	1	0		子育てが地域の人に支えられていると感じる人の割合 (i) 就学前児童	増加	49.0%	47.6%	49.3%	52.6%	3.3 pnt	2										
④ 少子化への対応や多様化・複雑化した悩みへの支援			2	8	0	0		(ii) 小学生	増加	64.2%	61.1%	60.0%	65.6%	5.6 pnt	2										
		計	12	57	3	0		(iii) 中学・高校生	増加	61.1%	60.9%	59.6%	55.0%	▲ 4.6 pnt	3										
69/72事業						95.8%																			

「元気発進！子どもプラン（第2次計画）」（北九州市次世代育成行動計画） 14の施策の評価結果

政策	施策	柱	活動の状況				活動の評価	成果指標					成果の評価	施策の総合評価				
			大変順調	順調	やや遅れ	遅れ		指標	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績			対前年度比			
1 安心して生み育てることができる環境づくり	(4) 家庭の教育力の向上	① 子どもの健全育成の基礎となる家庭の教育力の向上	2	8	2	1	2	朝食をほぼ毎日食べている児童の割合（就学前児童）	100%	93.8%	93.0%	93.9%	94.3%	0.4 pnt	2	<p>[指標の説明] *朝食を毎日食べている児童・生徒の割合は、いずれも高水準を維持。 *就寝時間が午後10時以降の就学前児童の割合は、前年度に比べ減少。</p> <p>[評価] >これまでの啓発等の取り組みにより、食事等の基本的な生活習慣を身につけることの重要性が、家庭内でも浸透してきたと考えられる。 >就寝時間については、親の勤務の影響を大きく受けるため、親の意識向上だけでは、改善が難しいと考えられる。 >成果指標「家族の人が話をよく聞いてくれる割合」については、H29年度以降把握を行っていないが、H30年度に別途実施したアンケート調査（保護者向け）によると、家族と毎日会話をした割合が9割を超え、子どもの話を聞いていると回答した割合が8割を超えており、親子間のコミュニケーションは十分に取れていることがうかがえる。</p> <p>[今後の方向性] >引き続き、基本的な生活習慣に加え、子どもの成長につながる親子関係づくり、家庭環境の整備にも視点をあて、さらなる家庭の教育力向上に取り組む。 >働き方の見直しなど、家庭での時間に余裕が持てるよう、社会全体で子ども中心の生活スタイルに改善する気運を高めていく。</p>		
			0	4	0	0		朝食を「毎日食べている」「どちらかといえば食べている」と回答した児童の割合（小学6年生）	100%	92.0%	92.4%	92.4%	91.8%	▲ 0.6 pnt	3			
		0	2	0	0	（中学3年生）		100%	90.5%	90.8%	91.0%	89.0%	▲ 2.0 pnt	3				
		0	2	0	0	家族の人が話をよく聞いてくれる割合（小学6年生）		増加	87.5%	88.8%	—	—	—	—	—			
		0	2	0	0	（中学3年生）		増加	86.6%	80.3%	—	—	—	—	—			
		計	2	14	2	1		84.2%										
	(5) 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の推進	① 事業者等との共同による仕事と生活の調和の推進	1	6	0	0	1	仕事と生活の調和がとれていると思う人の割合	増加	48.0%	49.0%	53.4%	51.8%	▲ 1.6 pnt	3		<p>[指標の説明] *仕事と生活の調和がとれていると思う人の割合は、前年度に比べ減少したが、過去4年間を見ると微増傾向にある。 *父親の家事・育児参加率は、増加傾向にある。</p> <p>[評価] >ワーク・ライフ・バランスについての市民や企業等に対する働きかけは順調で、広く意識醸成を図ることができた。 >父親の家事・育児参加率は増加傾向にある。父親の家事・育児参加への意識に変化が表れてきていると考えられる。</p> <p>[今後の方向性] >引き続き、市民や企業等に対し、ワーク・ライフ・バランスの実践や育児参加を働きかけていく。 >子育てを「父母ともに」と回答した割合が5割に止まっており、さらなる改善の余地があると考えられることから、引き続き男性の家事・育児への参画を促進していく。</p>	
			1	4	0	0		（i）育児	増加	69.3%	71.9%	71.9%	76.7%	4.8 pnt	2			
		1	4	0	0	主に子育てをしているのが「父母ともに」と回答した人の割合（i）就学前児童		増加	90.4%	92.8%	91.2%	92.3%	1.1 pnt	2				
		1	4	0	0	（ii）小学生		増加	51.2%	51.6%	49.7%	50.0%	0.3 pnt	2				
		1	4	0	0	（ii）小学生		増加	51.1%	49.8%	46.8%	41.9%	▲ 4.9 pnt	3				
		計	2	10	0	0		100%										
	(6) 安全・安心なまちづくり	① 子育て家庭が利用しやすい公園・遊び場の整備	0	3	0	0	2	子どもの遊び場や公園に対する満足度	増加	48.7%	52.2%	52.1%	52.2%	0.1 pnt	2			<p>[指標の説明] *遊び場や公園の満足度は、前年度に比べ微増。 *外出時に安心と感じる割合は、増加。</p> <p>[評価] >安全に配慮した公園整備や、子育てふれあい交流プラザなど屋内の遊び場の提供などにより、満足度を維持していると考えている。 一方で、遊具や駐車場、トイレなどの充実を求める声もあり、満足度のさらなる向上のためには、こうした要望に応えていくことも必要と考えられる。 >小学生に対して行ったアンケートでは、外出時に「危ない」と思ったことのある子(34.1%)のうち、「車が通ったとき」が18.6%で最も多く、次いで「自転車に乗っているとき」(11.7%)、「知らない人に見られるなどしたとき」(10.4%)となっており、地域の治安・通学路を含めた道路環境など、外出時に安心と感じられるよう、引き続き改善に取り組む必要がある。</p> <p>[今後の方向性] >安心して子育てができるよう、公園・道路等の整備・改善に取り組むとともに、防犯意識や交通ルールなど、子どもを含めた個人や地域の安全意識の醸成も図っていく。 >災害時に安全な住環境・生活環境の中で安心して過ごすことができるよう、支援体制の整備を進める。</p>
			7	6	1	0		子どもとの外出時に安心と感じる割合	増加	40.5%	39.4%	42.2%	45.0%	2.8 pnt	2			
		0	3	0	1													
		6	0	1	0													
		1	2	0	0													
		計	14	14	2	1		90.3%										

「元気発進！子どもプラン（第2次計画）」（北九州市次世代育成行動計画） 14の施策の評価結果

政策	施策	柱	活動の状況				活動の評価	成果指標					成果の評価	施策の総合評価		
			大変順調	順調	やや遅れ	遅れ		指標	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績			対前年度比	
2 子どもの育ちを支える幼児期の学校教育や保育の提供	(7) 幼児期の学校教育や保育の提供	① 保育の量の確保と教育・保育の質の向上	16	16	5	1	2	保育所待機児童数(4月)	0人	0人	0人	0人	0人	±0	1	B
			2	5	0	0		保育所待機児童数(10月)	0人	139人	148人	57人	0人	▲57人 (▲100%)	1	
			2	7	0	0		幼稚園・保育所に対する満足度(施設・環境) (i) 幼稚園	向上	86.9%	79.7%	88.5%	89.7%	1.2 pnt	2	
			2	7	0	0		幼稚園・保育所に対する満足度(施設・環境) (ii) 保育所	向上	86.1%	86.1%	87.0%	88.1%	1.1 pnt	2	
			0	1	0	0		幼稚園・保育所に対する満足度(教育・保育の内容) (i) 幼稚園	向上	89.6%	85.4%	91.4%	93.3%	1.9 pnt	2	
			0	1	0	0		幼稚園・保育所に対する満足度(教育・保育の内容) (ii) 保育所	向上	89.3%	87.1%	91.1%	91.6%	0.5 pnt	2	
			4	9	0	1		幼稚園における学校関係者評価実施施設数	90施設	54施設	82施設	90施設	90施設	±0 (0%)	2	
			1	2	0	0		保育所における児童福祉施設等第三者評価の実施施設数	全施設	154施設	158施設	164施設	168施設	4施設 (2.4%)	2	
		計	25	40	5	2	90.3%									
3 子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	(8) 放課後児童クラブ	① 放課後児童クラブの運営基盤の強化	0	2	0	0	1	放課後児童クラブの待機児童数(4月)	0人	0人	0人	36人	0人	▲36人 (▲100%)	1	B
			0	5	0	0		放課後児童クラブに対する満足度 (i) 施設・環境	向上	65.8%	64.3%	64.8%	64.1%	▲0.7 pnt	3	
			0	7	0	0		放課後児童クラブに対する満足度 (ii) 開所日・開所時間	向上	73.4%	74.9%	78.8%	74.0%	▲4.8 pnt	3	
					計	0		7	0	0	100%					

「元気発進！子どもプラン（第2次計画）」（北九州市次世代育成行動計画） 14の施策の評価結果

政策	施策	柱	活動の状況				活動の評価	成果指標					成果の評価		施策の総合評価				
			大変順調	順調	やや遅れ	遅れ		指標	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	対前年度比	1		1			
3 子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	(9) 青少年の健全育成	① 青少年への社会体験活動等の機会や場の提供	9	21	2	2	2	青少年ボランティアステーションにおけるボランティア体験活動者数	増加	5,415人	5,734人	5,387人	7,116人		1,729人 (32.1%)		1	B	<p>[指標の説明] *青少年のボランティア体験活動は大幅に増加。 *非行者率は、毎年着実に低下。</p> <p>[評価] > 青少年ボランティアステーションにおけるボランティア体験活動者数は大幅に増加し7,000人を上回った。青少年の成長に有効な体験活動が盛んに行われており、活動状況は順調である。</p> <p>> 非行者率は、毎年着実に減少しており、非行防止教室・薬物乱用防止教室の実施や、地域・学校・警察等と連携した支援体制が成果をあげていると考えている。</p> <p>> いじめ・不登校等の問題については、確実な実態把握に努め、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの配置や関係機関との連携により、きめ細やかな対応を行っている。 なお、いじめの解消率については、H30年度の実績が公表されていない段階であるが、過去の実績をみると100%に近い数値で推移しており、取り組みは順調であると考えられる。</p> <p>[今後の方向性] > 引き続き、関係機関等と連携し、子どもの成長を促す様々な体験の場を提供するとともに、青少年の健全育成が十分図られるよう、必要な環境整備・支援に取り組む。</p>
		② 有害環境から青少年を守り、非行を未然に防止するための取り組みの推進	2	6	0	1		非行者率 (少年人口1,000人あたりの人数)	7.0人	7.9人	6.4人	5.4人	3.8人	▲1.6人 (▲29.6%)	1				
		③ 危険ドラッグをはじめとする薬物の乱用防止対策の推進	0	3	0	0		いじめの解消率 (i) 小学生	100%	87.6%	99.1%	98.0%	9月に全国一斉公表のため、数値なし	-	-	-			
		④ 不登校やいじめの未然防止、解消に向けた取り組みの推進	0	4	0	0		(ii) 中学生	100%	97.7%	97.1%	96.3%	9月に全国一斉公表のため、数値なし	-	-	-			
		⑤ デートDV予防啓発の推進	0	1	0	0													
	計	11	35	2	3	46/51事業													
						90.2%													
	(10) 子ども・若者の自立や立ち直りの支援	① 若者の自立を支援する環境づくり	4	3	0	0	1	「YELL」来所相談者の就業等実績（累計）	500人	291人	337人	390人	437人	47人 (12.1%)	1	A	<p>[指標の説明] *若者の自立をサポートする「YELL」の来所者の就業等の実績が向上。 *非行歴のある青少年の雇用主の受入は前年度同数を確保。</p> <p>[評価] > 子ども・若者応援センター「YELL」において、悩みや課題を抱える若者に対し、自立に向けた支援等を継続的に行った結果、47名の若者が就労・就学に至るなど、多くの若者の自立支援の場としての役割を果たしている。</p> <p>> 非行歴のある青少年を受け入れる協力雇用主は、208社から234社に増加し、受入体制の整備が進んでいる。</p> <p>> 不登校状態の子どもに寄り添った訪問支援等については、今年度から本格実施となり、一人ひとりに寄り添った伴走型支援の充実が図られている。</p> <p>[今後の方向性] > 子ども・若者が社会生活を円滑に営むことができるよう、引き続き、自立を支援する環境づくりを進めるとともに、非行からの立ち直りを支えるため、雇用だけでなく生活面の支援にも取り組んでいく。</p>		
		② 非行からの立ち直りを支える取り組みの推進	2	2	0	0		北九州市協力雇用主見舞金登録者数	増加	17人	72人	72人	72人	±0	2				
		計	6	5	0	0		11/11事業											
					100%														

「元気発進！子どもプラン（第2次計画）」（北九州市次世代育成行動計画） 14の施策の評価結果

政策	施策	柱	活動の状況				活動の評価	成果指標					成果の評価		施策の総合評価		
			大変順調	順調	やや遅れ	遅れ		指標	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績				対前年度比	
4 特別な支援を要する子どもや家庭への支援	(11) 社会的養護が必要な子どもへの支援	① 児童養護施設における生活環境整備等の促進	0	7	0	0	2	地域小規模児童養護施設・小規模グループケアの実施件数	23か所	15か所	16か所	16か所	24か所	8 箇所	1	1	B
		② 里親や小規模住居型児童養育事業（ファミリーホーム）の普及促進	0	2	0	1			[H31年度]	(50.0%)							
計		0	9	0	1	90.0%	要保護児童数に対する里親・ファミリーホーム委託率	[H31年度]	20.0%	17.5%	20.8%	19.0%	19.1%	0.1 pnt	2		
	(12) ひとり親家庭等への支援	① ひとり親家庭の生活の安定と向上	2	9	2	0	2	ひとり親家庭の就業を支援する施策の利用数（母子・父子福祉センター延べ利用者数）	増加	10,015人	11,323人	10,520人	10,840人	320 人	2	2	B
								ひとり親家庭の支援・相談窓口を知らない人の割合（ⅰ）母子・父子福祉センター	減少	39.8%	52.1%	52.6%	51.1%	▲ 1.5 pnt	2		
								（ⅱ）子ども・家庭相談コーナー	減少	14.5%	9.6%	8.6%	7.7%	▲ 0.9 pnt	2		
		ひとり親家庭の就業率（5年に一度調査を実施）（ⅰ）母子家庭 [H23 83.6%]	増加	—	87.9%	—	—	—	—								
		（ⅱ）父子家庭 [H23 91.8%]	増加	—	94.2%	—	—	—	—								
② 子どもの貧困対策	3	13	1	0	27/30事業	90.0%											
計	5	22	3	0													

「元気発進！子どもプラン（第2次計画）」（北九州市次世代育成行動計画） 14の施策の評価結果

政策	施策	柱	活動の状況				活動の評価	成果指標					成果の評価		施策の総合評価			
			大変順調	順調	やや遅れ	遅れ		指標	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績				対前年度比		
4 特別な支援を要する子どもや家庭への支援	(13) 児童虐待への対応	① 児童虐待の発生予防・早期発見・早期対応および適切な支援	0	11	0	0	1	児童虐待対応件数	減少	606件	918件	1,139件	1,487件	348件 (30.6%)	-	-	<p>[指標の説明] *児童虐待対応件数は増加。</p> <p>[評価] >児童虐待の未然防止・早期発見等を図るため、関係職員等に対する研修会を実施するとともに拠点病院に配置した児童虐待専門コーディネーターを活用する「児童虐待防止医療ネットワーク事業」のさらなる推進を図るなど、対応強化を進めた。</p> <p>>取組みの強化により、潜在化していた事案が掘り起こされ、「早期発見・早期対応」という本市の目指す取り組みが進捗しているものと考えているが、児童虐待対応件数が大幅に増加しているという現状を踏まえ、今回は、成果の評価は行わず、総合評価(ABCD)も見送った。</p> <p>[今後の方向性] >児童虐待対応件数の推移を注視しつつも、引き続き、関係機関と連携し、児童虐待の未然防止・早期発見・早期対応に努める。</p>	
		計	0	11	0	0			11/11事業 100%									
	(14) 障害のある子どもへの支援	① 障害のある子どもの早期発見と相談・支援体制	4	13	0	0	1	専門機関・施設等に相談する割合（※）	増加	47.7%	72.1%	68.9%	70.0%	1.1 pnt	2	<p>[指標の説明] 子どもの成長や発達、障害に関する不安等について*専門機関・施設に相談する人の割合は、増加。 *友人や家族を含め、相談できる相手が全くいない人の割合は微増。</p> <p>[評価] >障害のある子どもの早期発見と相談・支援、全保育所での障害児の受入体制の整備、進路アドバイザーや就労支援コーディネーターによる高等部卒業生の就労支援など、障害のある子どもの成長過程に応じた支援を行い、障害のある子どもが自立し、社会参加できる社会環境づくりを着実に推進することができた。</p> <p>>放課後等デイサービスの受入定員は増加している。放課後等デイサービス利用者の保護者を対象に行ったアンケートでは、86.8%が「お子さんが放課後等デイサービスで過ごすなかで、お子さんの変化(苦手だったことができるようになったなど)を感じることもある」と答えており、支援の充実が図られていると考えられる。</p> <p>[今後の方向性] >引き続き、障害のある子どもとその家庭に対し、成長過程に応じた切れ目ない相談・支援を行い、必要な時に必要な支援を受けることのできる環境整備に取り組む。</p>		
		② 保育所等での障害のある子どもの受け入れや保育内容の充実と、小学校等入学時の情報伝達の強化	1	4	0	0		相談する相手がいない人の割合	維持	4.5%	4.2%	3.5%	4.1%	0.6 pnt	3			
		③ 障害のある子どもの放課後対策の充実	1	3	0	0		※「専門機関・施設等に相談する割合」については、H28年度のアンケートより、質問の仕方を変更し「相談できる専門機関等がある」と回答した率ではなく、「不安等を感じたときに専門機関等に相談したいと思う」と回答した率を集計した。										
		④ ライフステージを通じた相談支援体制の強化とレスパイトなど保護者の負担軽減の充実	3	11	1	0		60/62事業 96.8%										
		⑤ 重度の障害のある子どもへの支援の強化	4	8	0	0												
		⑥ 発達障害のある子どもへの支援の充実	4	4	1	0												
		計	17	43	2	0												